2024 年度
第 45 号

体育市民連帯
ニュースレター

大韓民国スポーツの

根本的変化を

皆さんと共に

作って行きたいです

体育市民連帯と共に

していただけますか？

1

帝王的リーダーシップから
脱しなければならない
改革の糸口は
二元化

2

スポーツ公正委員会は
誰のための機構なのか？
スポーツ界、李ギフン会長
の辞任を促す

3

「3 選阻止」
政府の圧迫最高潮
崖っぷち李ギフン
大韓体育会長の選択は？

4

文化体育観光部の発表後
内紛と不満が大きい
バドミントン界はなぜ？
会長解任要求したが…

*

5

性暴力職権乱用
公金流用まで･･･
不正にまみれた
忠清南道の体育界

6

区役所体育センターの
利用方法を変える上でも
公平議論？
どう思いますか？

ソウル市 瑞草区 瑞草洞 孝寧路 230 スンジョンビル 407 号　TEL 02-2279-8999

体育市民連帯　ニュースレター　2024 年　第 45 号　　2024.11.19

01　スポーツワールド　2024.11.15
「帝王的リーダーシップから脱しなければならない」改革の糸口は「二元化」

「内外で皆が声を一つにしている。 本当に異例のことだ」

大韓民国の体育界全般をめぐる議論が後を絶たない。 わずか 2 ヵ月前に開かれた 2024 パリ五輪を歴代最多タイ記録の金メダル 13 個で終えたが、その熱気は跡形もない。 選手たちの血と汗で成し遂げた成果が、完全に注目されていないのも久しい。 体育界のリーダーを自任している「大人」たちが各種論難で耳目を独占したためだ。

全国民的な公憤に包まれた李ギフン大韓体育会長が代表的だ。 鄭モンギュ大韓サッカー協会長も同じだ。 それぞれ出馬を公式に宣言してはいないが、両団体長とも来年 1 月の選挙を通じて再び大統領選に挑戦するという見通しが有力だ。

彼らは皆、体育団体長として明確な成果を上げた。 このような功労と努力をおとしめめるものではない。 しかし、問題は国民の信頼を失ったという点だ。 李会長は不正採用指示、後援物品の私的使用、物品後援要求など不正疑惑で捜査依頼された。 これと関連した警察の捜査も開始段階だ。 鄭会長も、国家代表監督選任への介入、組織の私物化、運営費の使用などの議論から自由ではない。

これは税金で運営される体育団体が改革が必要だということを意味する。 実際、体育市民連帯、スポーツ人権研究所、文化連帯など市民団体は 14 日、共同糾弾声明と共に「李会長は独裁的組織私物化を中断せよ」と要求した。

体育市民連帯の執行委員を務めている西江大学教育大学院のチョン･ヨンチョル教授は、体育界の慢性的な弊害の一つとしてブルドーザー式の運営を挙げた。 続けて彼は「長い批判にも反省どころか自省の声さえない」とし、「体育会労組が退陣デモをするほどではないか。 皆が口をそろえて変えようと言う。 本当に異例のことだ」と力を込めた。

傷だらけの体育界、それでも間に合う。 今からの改革に向けた声が高まっている。 スポーツコラムニストの鄭ユンス聖公会大学文化大学院教授もうなずいた。 鄭ユンス教授は「現在、体育会と李会長が見せているリーダーシップは帝王的な統治システムに基づいて退行的な行動を繰り返した。 昨年の海兵隊キャンプをめぐる議論だけを見てもそうだ」と指摘した。

体育会は昨年 12 月、慶尚北道浦項の海兵隊第 1 師団で「ワンチームコリア」という名目で五輪出場予定の国家代表選手団を参加させて物議をかもした。 オリンピックが終わった後、李会長は放送に出演し「オリンピックの成果は海兵隊キャンプのおかげ」と自画自賛したりもした。

鄭ユンス教授は「成果さえ出せばすべてが良くなるという考え方が問題だ。 我々がスポーツ先進国に生まれ変わるためには変わらなければならない」と述べた。 続いて「現在、体育会問題に隠された懸案があまりにも多い。 学生選手の学習権を見てもそうだ。 実際に関心を持たなければならない問題が沈んでいるという点が残念だ」と話した。

具体的な改革案も提示された。 その一つが、大韓体育会と大韓オリンピック委員会（KOC）を分離する案だ。 2019年に発足したスポーツ革新委員会から始まり、多くの専門家から好評を得た。
チョン·ヨンチョル教授は「一つの団体（大韓体育会）にあまりにも多くの力が込められている。 絶対権力に近い。 国内外の体育業務を分けて二元化すれば、変化の礎を築くことができるだろう」と見通した。
出典：https://www.sportsworldi.com/newsView/20241115503090

02　イロウンネット　2024.11.15

スポーツ公正委員会は誰のための機構なのか？
スポーツ界、李ギフン会長の辞任を促す

体育界の市民団体がスポーツ公正委員会の公正性を正面から批判し、李ギフン大韓体育会長の辞任を強く要求した。
体育市民連帯、スポーツ人権研究所、文化連帯は13日、共同声明書を通じてスポーツ公正委員会(以下公正委)を「反公正、不公正委員会」と規定し解体を促した。
公正委は最近、李ギフン会長の再任審議過程で「セルフ再任審議」という批判を受けた。
声明書によると、公正委の委員長は李会長の特別補佐役出身で任命され、残りの委員もやはり全て李会長が直接任命した人物だ。 これに伴い、公正委が李会長の挙手機の役割に留まったという批判が提起された。
体育界の市民団体は最近明らかになった李会長の子供の友人不正採用疑惑、背任、パワハラ論難など各種問題にも公正委がいかなる問題意識もなしに李会長の立場をかばったと主張した。
彼らは公正委が公正性を喪失したままスポーツ行政を危険にさらしているとし、「このような公正委はこれ以上存在する必要がない」と強調した。
声明書は、李ギフン会長が選手と指導者の人権保護、学生選手の学習権保障、市民のスポーツ接近性強化など、大韓体育会の核心責務に背を向けたと指摘した。
また、李会長が「海兵隊キャンプに国家代表選手を送る非効率的な行政と独断的運営で大韓体育会を混乱に陥れた」と批判した。
団体は、大韓民国のスポーツが墜落を繰り返しており、李会長の独断的な行政が組織私有化問題を深化させたと主張した。
彼らは「国民の税金4千億ウォンをかけて運営する体育会が公正性と責任感を喪失したまま国民を失望させている」と批判した。
体育界の市民団体は今回の声明書を通じて3つの要求事項を提示した。 要求事項は△スポーツ公正委員会は審議議決を撤回し直ちに解体すること△李ギフン大韓体育会長はすべての不正行為を認めて公式謝罪すること△体育界に迷惑をかけた李ギフン会長は直ちに辞退すること
市民団体は「スポーツは公正性と透明性を土台にしなければならない」とし、「大韓体育会が時代的使命を全うするためには現在の非正常的な体系と行政的弊害を改善しなければならない」と主張した。
大韓体育会の今後の対応と李ギフン会長の立場発表が注目される中で、体育界の根本的な改革が必要な時点という声が高まっている。

出典：https://www.eroun.net/news/articleView.html?idxno=49294

03　日曜新聞　2024.11.41

「3 選阻止」政府の圧迫最高潮…崖っぷち李ギフン大韓体育会長の選択は？

政府が李ギフン大韓体育会長に対する圧迫の水位を引き上げている。 文化体育観光部（文化部）が李ギフン会長の職務を停止した。 国務調整室は、李会長をめぐる不正採用、後援物品の私的使用などの容疑に対する捜査を依頼した。 しかし、李会長の 3 期連続当選の火花は依然として消えていない。 大韓体育会スポーツ公正委員会は、李会長の 3 選挑戦を電撃的に承認した。 李会長の 3 選挑戦を巡る「パワーゲーム」が絶頂に突き進む局面だ。

李ギフン大韓体育会長が 3 期連続で再選に挑戦するかどうかが、政界と体育界の熱い話題となっている。

李会長は 3 期連続再選に挑戦する可能性について口を閉ざしている状況だ。 李会長が出馬するかどうかは、次期大韓体育会長選挙の構図に相当な影響力を及ぼすものと見られる。 体育界の内部でも、李会長が 3 選再任に挑戦するかどうかと、その当為性をめぐって甲論乙駁（訳注：甲が何か述べると、乙がそれに反対するというふうに、議論がいろいろ出てまとまらないこと。）が繰り広げられている様相だ。

事実上「李ギフン会長 3 選再任阻止」に乗り出した政府は圧迫強度をますます高めている。 11 月 10 日、国務調整室の政府合同公職服務点検団は、李会長をはじめ、大韓体育会の役職員 8 人に対する職員不正採用、後援物品の私的使用などの容疑に対する捜査を電撃的に依頼した。

点検団は「突然のパリオリンピック選手団解団式場所変更にともなう予算浪費、出張決裁など服務処理なしに勤務地外業務推進費カード使用、虚偽証拠資料作成を通じた業務推進費先決済など体育会運営にも多数問題があることを確認した」として「李会長が対面調査を回避し、体育会業務用 PC ハードディスク無断除去、資料提出拒否など体育会が点検に非協力的な態度を示した」と伝えた。

大韓体育会は「国務調整室不正点検結果発表に対して同意できないことを明らかにする」として強力反発した。 大韓体育会は「パリオリンピック以後、3 ヶ月にわたり文体部、国会文体委聴聞会および国政監査、国務調整室現場調査、監査院監査を同時多発的に受けてきた」とし、「大韓体育会構成員らは同一内容に対して複数機関調査を繰り返し受けているので疲労に疲れている」と説明した。

国務調整室が李会長に対する捜査を依頼したことに歩調を合わせて文化体育観光部も動いた。 ユ･インチョン文化体育観光部長官は 2024 年初めから体育界の各種懸案関連で李会長と葛藤を生じさせてきた経緯がある。 11 月 11 日夕方、文体部は国務調整室政府合同公職服務点検団点検結果を根拠に李会長に対する「職務停止」措置を下した。

体育界のある関係者は「文体部が非常に機敏に李ギフン会長職務停止措置に乗り出した」として「11 月 12 日、李会長 3 選再任承認可否を決める大韓体育会スポーツ公正委員会を控えて宣戦布告をした格好」と評価した。

11 月 12 日午後 2 時、ソウル松坡区のオリンピック会館では、大韓体育会スポーツ公正委員会が開かれた。 スポーツ公正委員会委員は大韓体育会長が任命するが、委員が任命権者である大韓体育会長 3 選再任承認可否を審議および決定できる権限を持っている。 これに対して政界と体育界内外では「利害衝突論難」という指摘が絶えず続いてきた。

体育界内部関係者は「12 日に開かれたスポーツ公正委員会は李ギフン会長の 3 選再任の道を開く行政手続きに過ぎない」とし「すでに定量評価方式で李会長の 3 選名分を立てた状態で公正委員会が開催されるので、形式行為に過ぎないという批判を避けられないだろう」と指摘した。 体育界の一部ではスポーツ公正委を新軍部時代の軍内の私組織「ハナ会」に比喩する批判世論も存在すると伝えられた。

スポーツ公正委が開かれる前、オリンピック会館の前では、次期大韓体育会長選挙への出馬を宣言した檀国大学のカン· シンウク名誉教授が、1 人ピケットデモに乗り出した。 カン教授はスポーツ公正委に向かって「スポーツ不公正委員会にならないでほしい」と訴えた。 カン教授は「スポーツ公正委が体育人と国民の目線に合う決定をしなければならない」として「大韓民国から愛される大韓体育会になれるよう勇断を下す必要がある」と強調した。

大韓体育会の労働組合もデモを行った。 大韓体育会労組は「国会も無視して小細工で再任に挑戦する李ギフン会長は退け」というメッセージが書かれた垂れ幕を持って糾弾デモに出た。 スポーツ公正委に向かって、常識と価値に基づいて案件を審議せよという声を出したりもした。

李ギフン会長の 3 選再任と関連した反発の声が大きくなったが、スポーツ公正委は李会長の 3 選への道を電撃的に開いた。 スポーツ公正委は、李会長の再任申請を承認した。 「セルフ審議」に対する論難はより一層大きくなった。

体育市民連帯、スポーツ人権研究所、文化連帯など市民団体は 14 日声明を通じて「李ギフン会長は自身の特別補佐役出身をスポーツ公正委員長に座らせ、残りの委員も自身が任命した」として「スポーツ公正委は予想通り李ギフン会長の挙手機の役割を忠実に遂行し、『セルフ再任審議』という非難を受けて当然だ」と声を高めた。

体育市民連帯は「李ギフン会長組織の私有化弊害はいちいち言及しにくいほど溢れている」としてスポーツ公正委解体と李ギフン会長の即刻辞退を促した。

海外出張の途についていた李ギフン会長は 12 日、ソウル行政裁判所に文化体育観光部の職務停止措置に対する仮処分申請を出した。 翌日の 13 日、仁川国際空港を通じて帰国した李会長は、3 選に挑戦するかどうかを問う取材陣の質問に、「今は何とも申し上げにくい」とし、「構成員らと議論して決定し、申し上げる」と言葉を慎んだ。 国務調整室が李会長に対して捜査を依頼したことと関連しては「1%も同意できない」と話した。

李会長の 3 期連続再選への挑戦が現実化するかどうかは依然として五里霧中だ。 李会長が今後、政府の圧迫水位や仮処分申請の結果などを見守りながら、3 選再任の挑戦と関連した最終決定に乗り出すだろうという見方が出ている。 時間を十分に置いて状況を正確に把握した後、決定を下すという戦略的行動と解釈される。

文体部は李会長が 3 選再任に挑戦し選挙で当選した場合、李会長 3 選を承認しないという立場を対内外的に表明してきた。 大韓体育会に対する政府予算支援をめぐっても、強力な圧迫が続くものと見られる。 大韓体育会中心の体育行政システムにも改革のメスを入れる可能性が提起されている。 すべての圧迫の前提は、イ会長の 3 選再任の現実化に焦点が当てられているという。

李会長の 3 期連続再選に挑戦するかどうかは、次期大韓体育会長選挙の構図を決めるものと見られる。 体育界の複数関係者によると、李会長が出馬しない場合には「群雄割拠」に近い多者構図が展開されるものと予測される。 候補の競争力によって選挙の勝敗が左右されるという分析が出ている。

体育界内部では「李ギフン不出馬シナリオ」を念頭に、いくつかの広域自治体の体育会長が出師の表をいじっているという話が流れている。 「ポスト李ギフン」を狙う走者たちと「反李ギフン」を標榜する走者たちが大韓体育会長の席をめぐって各個戦闘を行う可能性が提起されている。

反面、李会長が出馬意志を固める場合には「李ギフン対反李ギフン」構図で選挙が進行される可能性が大きい。 ただし「反李ギフン陣営」で候補一本化が難航し、多者構図で選挙が進行されるならば、李会長が再び有利な高地を先取りできるという分析が出ている。

ある地方自治体体育会関係者は「李ギフン会長に向けた政府圧迫強度が高まり、李会長が出馬しても過去のような支持勢を得られるかは未知数」として「当選しても政府と正面衝突が予告された状況である理由」と説明した。

政界では「李ギフン防止法」も公論化されている。 チョン･ヨンウク国民の力議員は 14 日、大韓体育会の自主機構であるスポーツ公正委が持つ体育会役員再任審議権限を第 3 の外部機関であるスポーツ倫理センターに任せるようにする内容を骨子とした「李ギフン防止法」を発議した。 大韓体育会会長と京畿団体役員は 1 回に限って再任できるように制限する内容も法案に盛り込まれた。

チョン議員は「大韓体育会が不正疑惑で職務停止された李ギフン会長 3 選挑戦を承認するなど自浄機能を喪失した」として「大韓体育会不公正カルテルをこれ以上放置することはできない」と話した。

出典：https://m.ilyo.co.kr/?ac=article_view&entry_id=482205

04　スポーツ朝鮮　2024.11.41

文化体育観光部の発表後、内紛と不満が大きくなったバドミントン界はなぜ？ 600 人余り、会長解任要求したが…「無用の長物」で終わるのか

「懲戒すれば何をするのか、潰せばいいのに…」.'

最近、バドミントン界で文化体育観光部が大韓バドミントン協会を対象に下した厳重措置をめぐって懐疑論が広がっている。 文化体育観光部は先月 31 日、「バドミントン協会の事務検査および補助事業遂行点検」の最終結果発表を行い、事実と明らかになった協会の各種不正･不良行政を指摘した。 これに伴い、指摘事項に対する是正命令と共に金テクギュ会長に対して解任を、A 事務処長に対して重懲戒を要求した。

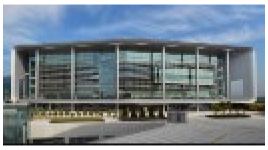
しかし、文化体育観光部のこのような厳正措置が事実上無用の長物であるうえ、バドミントン界内部の葛藤だけを加重させる状況につながると、文化体育観光部をむしろ恨む声まで出ている。 13 日、スポーツ朝鮮取材を総合すれば協会の一部副会長、理事と全国の一線指導者など 600 人余りは 11 日「スポーツ公正委員会は金会長の職務停止案件を審議してほしい」という要求書を協会に提出した。 各学校･実業チームのエリート指導者だけでなく生活体育指導者まで連帯署名に参加し、一部選手も参加するなど「アン･セヨン決心発言」事態以後、最も広範囲なバドミントン界内部の嘆願だ。

今回の懲戒要求は文化体育観光部が金会長の解任を要求したにもかかわらず、協会が黙殺するように依然として傍若無人態度で一貫すると「このままではさらに大きな撤退をむかえる」という危機感から出てきた自浄努力の一環だった。 文体部は調査最終発表で「協会が自浄努力を見せることができる最後の機会

だ」とし、今後国庫補助金還収、管理団体指定手続きに着手できると警告した経緯がある。 スポーツ種目団体の立場で「管理団体」は死刑宣告に他ならない。
しかし、協会が会長解任案審議のための公正委を開催するか、開催しても文化体育観光部の要求どおり解任が可決されるかについて悲観的な展望が優勢だという。 協会と公正委の構造的な問題のためだ。 公正委は協会傘下の分科委員会で、諮問機構の一つに分類されている。 特に、金会長は昨年 10 月当時、公正委（9 人）が最小構成要件（7 人以上）を備えていたにもかかわらず、5 人の委員を追加任命し、現行の 14 人体制にした。 「公正委員会が会長の親政体制で構築された」という周辺憂慮もこの時から出てきた。
公正性· 中立性で疑われた公正委員会がどのように会長を相手に懲戒審議をするかという憂慮がそのために出ている。 実際、大韓体育会が 12 日に公正委を開き、李ギフン会長の 3 選挑戦の道を開く「セルフ再任審査」を通過した事例が出てくると、バドミントン界の不安感はさらに大きくなった。
公正委員会の「傾いた運動場」の雰囲気は要求書受付段階ですでに露出した。 署名者を代表した金副会長は当初、公正委員長に直接要求書を提出しようとした。 署名者の個人情報流出を予防するためだった。
だが、公正委員長は受付を拒否し「公正委は協会組織なので協会に提出しなさい」と答えた。 「協会会長と事務処長が懲戒対象だが、彼らに個人情報が閲覧されたらどうするか」として抗議したが無駄だったという。 結局、金副会長は協会担当者に個人情報保護法の遵守を頼んだ後、要求書を受け付けた。
公正委の不公正憂慮だけが問題ではない。 金会長が「持ちこたえ」れば、別に方法がない。 現会長の任期は来年 1 月までわずか 2 ヵ月あまり残っている。 金会長は文体部の最終発表後、一部言論とのインタビューで「国家人権委員会や国民権益委員会に提訴」、「誰が私を解任するか」を云々し強力反発した。 ここに文体部の調査結果に対して法的に保障された異議申請期間が発表日から 1 ヶ月だ。
金会長が異議申請、法的対応などの手続きに入る場合、是々非々を明らかにするために少なからぬ時間が流れ、そうするうちに会長任期を最後まで終えることになるというのが法曹界の多数予測だ。 結局、文体部の解任要求は変なことばかり言う「要式行為」に終わる危険が大きくなることになる。
金会長は最近、文体部調査関連対策会議を行い、いわゆる「親衛勢力」市道協会長、役員らだけが会って議論するなど「反対派」との戦線を拡大していると知られた。 文化体育観光部の調査で協会問題が解決されるどころか「やぶ蛇」になる局面だ。 協会のある代議員は「文体部が曖昧に措置をしたために協会の内紛だけが深刻化しているという不満も出ている」とし「このような状況が放置され、会長が任期を全うして去れば後始末は誰が責任を負わなければならないか心配が山ほど」と話した。
出典：https://sports.chosun.com/sports-news/2024-11-13/2024111301000885800013475

05　大田日報　2024.11.17

性暴力職権乱用、公金流用まで···不正にまみれた忠清南道の体育界



忠南道体育会で慢性的な弊害に挙げられる不正行為が絶えないことが分かった。役員· 指導者· 選手など地位と関係なく(性)暴力· 職権乱用· 公金流用などを犯し出場停止· 資格停止· 除名などの懲戒がなされた。
道体育会が朴ギヨン道議員に提出した行政事務監査資料(スポーツ人権侵害現況)によると、道内はスポーツ公正委員会の受付· 処理を基準に過去 3 年間で計 16 件が発生した。

具体的に△2022 年 6 件△2023 年 8 件△2024 年（10 月 1 日現在）2 件であり、指導者 8 人·役員 6 人·選手 2 人に対する懲戒を確定した。
韓国の体育界に蔓延していた「暴力行為（性、言語、身体)」が最も多い 75%（12 件）を占めたのに続き、職権乱用（2 件)、補助金流用（1 件)、管理怠慢（1 件）が続いた。
懲戒類型は△出場停止 1 回-1 年△資格停止 3 月-4 年△除名で、会員団体の中で A 役員は昨年 3 月補助金流用で「除名」を、B 役員は 9 月暴力·人権侵害で「資格停止 4 年」を措置した。 道体育会スポーツ公正委員会だけでなく所属機関も警告·停職·契約解約·解雇を決めた。
上級団体である大韓体育会の場合、「政府合同公職服務点検団」が 10 日、職員不正採用、後援要求(金品授受)、後援物品私的使用などでイ·ギフン会長などに対する捜査を依頼した。
文化体育観光部は同じ理由で 11 日付で職務停止を通知した。
「公共機関の運営に関する法律」は公共機関役員が不正行為をした事実·疑惑があれば検察·警察など捜査機関と監査院など監査機関に捜査·監査を依頼しなければならず、職務を停止させることができるよう規定した。
朴ギヨン（国民の力）道議員はこれについて、「まだ不正行為が根絶されておらず残念だ。 昔の方式で競技力向上などのために物理力を加える場合もあるようだ」として「まず指導者の心構えなどに対する教育が必要だ。 道体育会が確実な意志で自浄努力をしなければならない」と強調した。
出典：https://www.daejonilbo.com/news/articleView.html?idxno=2166910

06　釜山日報　2024.11.17
区役所の体育センターの利用方法を変える上で公平？ どう思いますか？

釜山の一部区·郡の公共体育施設の会員募集に「抽選制」の導入が検討され、甲論乙駁の真っ最中だ。 公平な教育機会を提供するという趣旨で、くじ引き式抽選制を導入するということだ。 反面、既存会員の間では教育持続性が劣るという不満の声が出ている。
これまで釜山の基礎自治体が運営する区立体育センターの人気講座のほとんどは、既存の会員が制限なしに相次いで利用することができた。 既存の会員でなければ講座を聞くことが難しかった。 既存の会員が抜けば席が残るが、空席を取ろうと夜明けから体育センター前に待機する列ができるほどだった。
釜山南区庁は 17 日、来年 1 月から龍湖洞南区国民体育センター1 館で行われる水泳、アクアロビック講座に対して抽選制を導入すると発表した。 既存会員がまず登録した後、残った席に対して先着順で受け付ける既存方式を廃止するということだ。 南区役所側は、「抽選にならなければ、来月再び挑戦する機会が与えられる」と説明した。 同時に南区役所側は修了制も導入することにした。
南区役所が導入する抽選制は、毎月一定期間会員を募集し、実際の授業を受ける人数をくじ引きのように同じ確率で選ぶ方式だ。 会員に選ばれた人は最大 6 ヵ月間、自分が志願した講座に対して登録延長が可能だ。 6 ヵ月が過ぎれば授業を修了することになり、再び抽選に応じなければならない。

水営区庁も来年7月から水営区国民体育センター講座の全種目の会員募集を抽選制で施行すると予告している。 水営区の場合、抽選で選抜された人数は1年間講座登録優先権が保障される。 蓮堤区ではすでに6ヵ月単位の抽選制と修了制を通じた会員募集が行われている。

一部区·郡の体育センター会員募集方式の変化は公平な教育機会を提供するという趣旨だ。 南区役所の関係者は「人気講座は既存会員が再び受講を申請する場合が多く、新規会員が聞くことが難しい状況」とし「特定時間帯のアクアロビック講座を10年間聞いている人もいる」と話した。 体育センターの一部講座の場合、空席があれば住民たちが体育センターの前で陣取って先着順の受付を待たなければならないということだ。 体力が落ちる高齢会員は、利用する気になれない場合もある。

各自治体は、住民なら誰でも使える国民体育センターの趣旨に沿って、抽選制の導入を推進しているが、第一段階から強い反発にぶつかっているのが実情だ。

既存の体育センター会員たちがオンライン苦情から地域区庁に団体で訪問するなど抗議を続けている。 彼らは一方的な通知と共に抽選制方式がむしろ十分に教育を受ける機会を剥奪すると主張する。

特に、最近抽選制を予告した南区役所は、ひどい陣痛に苦しんでいる。 南区役所側は12日、公聴会を開き住民たちが疎通する席も持ったが、互いの見解の違いだけを確認したまま適当な所得なしに終えられた。 請願人のヤン某氏は「既存会員たちも明け方2~3時から待って苦労して登録したが、意見収斂もしなかった」と悔しさを爆発させた。 南区住民の李某氏は「水泳で6ヶ月でちょうどキックを終える段階だが、抽選を受けなければいつ泳法をまともに学ぶのか」として「もし抽選制に変わることになれば他の体育センターに移るようだ」と話した。

出典：https://www.busan.com/view/busan/view.php?code=2024111718191210327

07　週間スポーツニュース

柔道英雄ハ·ヒョンジュ、国民体育振興公団理事長任命

https://www.yna.co.kr/view/AKR20241118075900007?input=1195m

WKBLオールスター戦、韓日オールスター対決･･･ 12月22日 富川体育館開催

https://www.starnewskorea.com/stview.php?no=2024111812072934290

道議会「慶南体育会、会計管理のずさんさ･･･監査が必要」

https://news.kbs.co.kr/news/pc/view/view.do?ncd=8108669&ref=A

体育強国の陰城郡、スポーツ熱気で「興奮」

https://www.ggilbo.com/news/articleView.html?idxno=1059604

五輪初の女子メダル、イム·エジの名を冠したボクシングジムが誕生

https://news.sbs.co.kr/news/endPage.do?news_id=N1007877541&plink=ORI&cooper=NAVER

大邱中区「福祉ヌリバンダビ体育センター」着工

https://news.kbs.co.kr/news/pc/view/view.do?ncd=8108702&ref=A

「床の上のカーリング」…全国障害者生活体育「ボッチャ」大会など[始興ニュース]

https://www.newsis.com/view/NISX20241117_0002962100

警察、「不正採用·横領疑惑」李基興（イ·ギフン）体育会長に捜査着手

https://www.yna.co.kr/view/AKR20241113137400004?input=1195m

全羅北道·ソウル市、五輪競争…大韓体育会の後続手続き

https://news.kbs.co.kr/news/pc/view/view.do?ncd=8108301&ref=A

体育市民連帯オンライン　定期後援案内

万人が楽しむスポーツ世界、体育市民連帯が共に作ります。
私達連帯の活動に積極的に賛同していただくことを願います。

私たち体育市民連帯は体育人の権益保護と
福祉実現のために努力しています。
皆さんの小さな心づかいがより良い世界のための
体育市民連帯活動に強固な土台となります。
体育市民連帯会員として力になろうと
される方は下の口座に後援お願いします。
国民銀行　086601-04-095940
口座名義：体育市民連帯
オンライン定期後援は下のリンクを通じてホームページからできます。
多くの関心をお願いします。

体育市民連帯　ソウル市 瑞草区 瑞草洞 孝寧路 230 スンジョンビル 407 号
Tel：02-2279-8999、E-mail：sports-cm@hanmail.net　ホームページ：　http://www.sportscm.org/
日本語訳：佐藤好行　新日本スポーツ連盟　国際活動局　韓国担当　jr1fep@gmail.com
週刊ニュースレターバックナンバー（資料室）　http://www.yg.jpn.org/sportscm/index.html